

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300446		
法人名	医療法人社団 友志会		
事業所名	グループホーム森の舎		
所在地	下都賀郡野木町南赤塚1218-8		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成28年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺は住宅地があり併設施設もあるが、森の緑が多く、庭には花壇、畑もあり季節を感じ、自然と一体となった雰囲気がある。児童養護施設、小規模特別養護老人ホームが隣地にあり、子供達との交流も時折行えている。高齢者と幼児・児童が生活の場としてふれあいながら暮らしている。認知症になっても大勢の人との関わりを大切に出来るように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・現在、当事業所は3棟あり、木材を多く使用した落ち着いた雰囲気のある事業所である。事業所の共有空間は広く、利用者が好みの場所を選択してソファや椅子でくつろげるスペースが用意されている。  
 ・職員は法人の理念に沿って毎年1回、意見を出し合い、スタッフ向けと利用者向けの年間目標を設定し、目標に沿った業務を行っている。  
 ・職員は利用者の希望に添うように丁寧に話を聞き、対応している。利用者の状態の変化に対しても、職員は色々なアイデアを駆使して対応している。  
 ・併設の施設から看護師の協力があるため、緊急時の対応も難なく行われている。終末期については、職員・家族と十分に話し合いをして事業所で出来範囲の対応を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、一緒のケア、ケアされるケア」を掲示し、独自の理念を作っている。職員は理念に沿ったサービスの提供に努めている。	法人の理念に沿って毎年1回、森の舎職員が意見を出し、スタッフ向けと利用者向けの年間目標を設定し、目標に沿った業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に挨拶をしたり、立ち話をする時もある。近隣施設や学校との夏祭り、文化祭、収穫祭に参加している。	毎年10月に行われる近隣中学校の文化祭に参加し、作品を見たり、生徒が作ったカレーライスと一緒に食べる等して交流を図っている。新年の初めにはグループごとに初詣に行き、地域の新年の行事に参加している。	地域の高齢者の増加により、支援の声を上げられない高齢者に対しても支援できるような活動を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回、認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議では、毎回定例の議題やその他の議題について率直な意見が出ている。ヒヤリハット報告等でも、細かい内容について話し合い、状況を確認している。	運営推進会議は2ヶ月に1度行われ、回を重ねるごとに話す内容が深まり、利用者の情報も密に交換できるようになっている。事業所としても、ありのままの現状を伝え、課題がある時には関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練時、役場担当者・消防署に協力を得ている。認知症サポーターの協働など質の向上に努めている。実践者研修の案内受付も役場に力添え頂いている。社協で行う講演イベントの情報提供もある。	行政からの認知症サポーター養成講座の依頼があり、認知症の予防に貢献している。講座の中で、職員がスライド説明や寸劇を行い、参加者が理解出来る様に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準禁止の対象となる具体的な行為」を職員が正しく理解し、安全対策委員会や身体拘束廃止検討委員会にて、拘束しないケアに取り組んでいる。	年に1回行われる身体拘束、虐待防止の会議に全職員が参加し、拘束しないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行っており、虐待は絶対しない様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族または本人の希望に応じて、権利擁護制度を利用できる用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時と十分に説明を行い、理解して頂く体制となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族の意見を聞き、行っている。不満・苦情などはその都度、職員に話して頂いている。併設老健の相談員も対応している。家族会開催時に、意見を聞いている。	家族会は年に3回(5月、8月、12月)行われ、その時に家族から意見を聞いている。利用者の日常をスライドを用いて紹介する時間は、グループホームで楽しく生活する様子が家族にも伝わり、好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の3棟合同ミーティング、各棟ミーティングにおいて、意見を出し合い反映させている。司会・書記も持ち回りで全員の意見の集約に努めている。	職員間で自分の意見を言えるよう、日頃から管理者は笑顔で明るい雰囲気大切にしている。そのため、利用者の対応で困ったことがあれば、随意相談できる体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、他の施設と同様に行われている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部、法人内研修に参加し、内容を合同ミーティングで報告し合っている。入職時に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内のグループホーム協会で、ネットワーク作りは出来ている。法人内地域密着型事業所(3か所)で集まり勉強会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験やお試し入居も受け入れる用意があり、その際、本人自身から話を聴取したり、本人の観察を行い、要望・訴えを受け入れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が家族と面会し、希望や問題をよく聞き、家族の理解に努めている。また、随時ホームの見学も受け入れ、不安の解消を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の統括マネージャーが本人・家族と面会し入居前から希望や状況の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と共にレクリエーションや家事(おぼん・食器拭き・洗濯物たみ)など役割を持ち、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事介助や片付けなど、行事の時や面会時に自然に行ってもらっている。病院受診も行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前住んでいた家の近所の人の面会も受け入れている。(馴染みの人が来ている)電話がしたいと希望時には、ゆっくり話が出来るように支援している。	面会に来た家族や知人には、スタッフが必ず声をかけ、最近の様子を伝えている。様子を伝えることで家族が不安を解消できる等、共に生活していない時間の距離を縮める役割を果たしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の助け合いや、気持ちの支え合いが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終身ケアを行っているので、途中退去は基本的にないが、経管栄養になった場合、法人内の隣接する施設に移動する方がおり、職員は時々、様子を見に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意見を尊重するよう努めている。家族に会いたがっている時、不穏時は家族に電話をし、声を聞き落ち着けるよう支援している。職員は明るい雰囲気ですぐに接したり、傾聴重視など本人やその場に合わせた対応を行っている。	利用者の希望に添うように職員は丁寧に利用者の話を聞き、対応している。また、個人の生活歴を把握し、何か役割をもてるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や本人・家族の話を伺い、馴染みの暮らしに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやケアプラン、介護記録等により把握するよう努めている。(こまめに職員同士で常に情報交換している)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成、更新にあたっては、毎月のミーティングなどで話し合いを行っており、本人や家族の意見を尊重した上で作成している。プラン担当者を設け、全員を目配りするが、きめ細かな文章作成になるよう努めている。	利用者や職員からの意見を聞いて介護計画を立てている。また、家族が面会に来た時にも家族の意見を聞いている。介護計画は具体的な目標を立てて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録は、細かく介護記録に残し、職員間でも情報の共有に努めた上で、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的な変化にも素早く対応を心がけている。緊急の訪問診療・看護、通院を受け入れ、本人、家族の要望に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションなどは、地域のボランティアの方に来て頂いている。実習生の受け入れも多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医へ対応を行っており、本人・家族の希望を大切に、適切な医療を受けられる様に支援している。	定期的な医療受診は家族が対応している。家族の事情で通院が難しい場合は、事業所職員が対応している。併設の施設から看護師の協力があるため、緊急時の対応も難く行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設老健NS、訪問看護師と常に連絡を取り、入居者が適切な処置、助言を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、早期退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じて行っている。希望に添える様に全員で方針を共有している。主治医に相談し、支援に取り組んでいる。	終末期については、職員・家族と十分に話し合いをして事業所で出来範囲の看取りを行っている。また、職員は終末期の対応がチームで行えるように勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して対応できる様に勉強会や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度、火事を想定した避難訓練をおこなっており、併設施設老健、特養職員もかけつけてくれる。地域と協働体制も築いている。地震時の避難経路についても合わせて検討している。	消防署立ち合いの避難訓練を年に2回実施している。夜間を想定した訓練も行っている。備蓄は併設の老人保健施設で確保されている。地震時の対応もマニュアル化されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切に言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに寄り添い、利用者の行為になるべく否定せず、丁寧な声掛けを行っている。不安な気持ちを抱えた利用者に対しては、職員が一人ひとり考え、統一した対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合わせて、納得して頂ける様に支援を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	指定の理髪店にお願いして定期的に理髪をしている。出掛ける時は化粧をされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みや力を活かし、入居者と職員と一緒にご飯を食べている。料理の味付けの感想をもらいながら、食事を楽しんでいる。	併設の老人保健施設に勤務している管理栄養士が献立を作成しており、各棟ともに共通の食事のメニューである。また、利用者に合わせて食事形態で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取状況を把握し、食器や食事形態を工夫している。また、食事摂取量や水分摂取量を記録している。献立は併設施設老健の管理栄養士が作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施している。本人の力に応じ、うがいや歯みがき、義歯洗浄を行っている。状況に応じて職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声掛けしたり、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者の排泄パターンを把握している。毎日の排便が行えるように、牛乳や体操等を行い便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、100%果汁のジュースを取り入れ、レクリエーションなどで身体を動かす機会を設けている。頓服の便秘薬など便秘時に使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者、一人ひとりがゆっくり入浴できるように入浴時間を配慮している。また、入浴希望があった時は随時対応している。ADLが低下した方へは、座位式機械浴で入浴を安楽に行えている。	入浴は基本的に午後の時間で対応している。ゆっくり入りたい方、一番風呂の好きな方等、それぞれに応じた対応をしている。	今後は個人の生活状況を考慮し、例えば夕方入浴などの個別対応ができることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に居室で休息したり、テレビを観たりしている。職員は、夜間帯、入居者の状況に応じて一緒に談話したり安心できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに処方箋がファイルされており職員は常に使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、トランプ、ボール遊び、歌など楽しみや気分転換等の支援をしている。また、主婦であった経験を活かし家事を手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、お楽しみ会でドライブや外食をしている。また、家族と食事や墓参りにも行く。外出・外泊先では、事前に計画している場合も含め、協力を常に得ている。	月1回のお楽しみ会には車で外出をして、外食を行っている。日常的に事業所の周りを散歩して気分転換を図っている。	一人ひとりの希望にそった日常的な外出支援も充実できるよう、法人として職員配置や勤務体制の見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は自分の上着のポケットにお財布を持っており、お金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が、家族に電話をしたり、家族から手紙が届き、やり取りができる様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから台所が見え、食事を作っている様子が分かり、生活感が感じられる。また、リビングには季節の花を飾り、職員手作りのカレンダーを毎月貼り換えている。	床暖房が設置されているため冬期も暖かく過ごせる。また、天井が高く圧迫感もなく、天窓から太陽の光も入り明るい造りとなっている。リビングには季節の花が飾られ、四季の変化が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファでくつろいだり、談話室があり思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望により、タンスや仏壇などを持ち込んでいる。物が多い方でも職員が、家族に声を掛けたり、一緒に片づけられる様に配慮している。	本人が好きなものを各部屋に持ち込み、安心した環境で生活している。壁面にコルクボード設置し、利用者の好みの物を飾っている。介護用のベッドが設置されているので、身体機能が低下しても安心して生活できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をつけ、日中は日差しが入りすぎない様カーテンなどで対応し、夜間帯は、暗すぎない様に、照明(豆電球)、廊下の照明などで調整している。		